

質問30分 質問・答弁60分

一般質問通告書

通告番号

入間市議会議長 様

8番 松本義明

平成26年5月19日

質問事項	質問要旨	答弁を求める者
福祉行政	障がい児支援	福祉部長 健康福祉センター所長 市長
	1. 現在の障がい児支援	
	(1) 支援の流れと課題	
	(2) 健康福祉センターの事業	
	2. 今後の障がい児支援	
	(1) 自立のための一貫した発達支援	
	・総合相談窓口の設置	
	・ケース会議の実施	
	(2) 社会資源の充実	
	・民間との連携	
	・近隣市との連携	

一般質問要旨

松本義明

「障がい児支援」

1. 現在の障がい児支援

(1) 支援の流れと課題

2012年4月から障害のある子ども、発達が気になる子ども（以下、障がい児）に対する支援の根拠法が原則として児童福祉法に移行した。それに伴い、各市町村で障がい児施策が展開されているが、本市における現在の障がい児支援の流れはどのようなものか。また、障がい児支援の流れの中でどのような課題があると認識しているのか。

(2) 健康福祉センターの事業

健康福祉センターにおける元気キッズ等の発達支援事業を行っているが各事業の展開はどのようなようになっており、どのような課題認識をしているのか。また、本市の障がい児施策全般とはどの様に連携しているのか。

2. 今後の障がい児支援

(1) 自立のための一貫した発達支援

・総合相談窓口の設置

児童福祉課、障害者福祉課、親子支援課、教育委員会でそれぞれ障がい児支援を行っている。担当課をまたいだ横断的な総合相談窓口を創設すべきではないか。また、発達の各段階を総合的に支援する縦断的な支援を行うためにも総合相談窓口が必要ではないか。

現在の体制では健康福祉センター（親子支援課が担当）に総合相談窓口を設置すべきではないか。総合相談窓口はコーディネーター機能を担い障がい児の保護者への支援も行う。

・ケース会議の実施

障がい児支援においては発達段階において連携が必要であると言われているが、連携の具体的な方法として関係者を集めたケース会議を開催すべきではないか。ケース会議をおこなう前提としては、サービス提供と生活面の支援も含めた個別支援計画が必要である。

(2) 社会資源の充実

・民間との連携

入間市は近隣市と比べても障がい児支援の社会資源が不足している。行政がニーズ調査を徹底してデータを民間事業者と共有すること、民間事業者の相談に乗り働きかけていくことで障がい児のデイサービス、ショートステイなどを計画的に整備していくべきではないか。

・近隣市との連携

入間市にはなく近隣市にはある障がい児支援があるが、ダイヤ4市間の市独自サービスを相互利用できるようにすべきでないか。また、ノウハウもダイヤ4市間で共有すべきでないか。